

令和元年度 臨時長浜市総合教育会議 要点録

I 日 時 令和2年3月30日（月曜日）12時45分～13時38分

II 場 所 長浜市役所 本庁舎3階 特別会議室

III 出席者

【構 成 員】 藤井勇治市長、板山英信教育長、
井関真弓教育委員、西橋義仁教育委員、廣田光前教育委員、
美濃部俊裕教育委員、宮本麻里教育委員

【事 務 局】 米田教育部長、岩田教育委員会事務局次長、
横尾教育委員会事務局次長、土田教育改革推進室長、
伊藤教育指導課長、大田すこやか教育推進課長、
大音幼児課長、富永幼児課参事、今井教育総務課課長代理、
古田総合政策部長、山内総合政策部次長、横尾総合政策課長、
柴田総合政策課課長代理、他 担当職員（2名）

【議事進行】 古田総合政策部長

【説 明 者】 且本健康福祉部長、織田健康福祉部健康医療管理監、
山田防災危機管理局長

【傍 聴 者】 無し

【報道機関】 中日新聞

IV 内 容(※令和2年3月30日時点の情報で会議を開催しています。数値や状況等、
変化していることもありますので、ご了承ください。)

1 開 会

2 市長挨拶

(要旨)

緊急に開催させていただくことになりました、長浜市総合教育会議の開会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。緊急の開催となった中、全員ご参加いただき心から感謝申し上げます。日ごろから、子どもたちの教育の充実と発展、そして健全育成のために、大変なご尽力を賜っておりますこと、改めて御礼申し上げます。

さて、本日の会議のテーマは、「新型コロナウイルスから子どもたちを守るためにできること」でございます。構成員の皆様からからご意見をいただきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

新型コロナウイルスについては、長浜市も直ちに対策本部を立ち上げ、市職員、病院、消防と連携して対応しております。

連日、新型コロナウイルス感染症に関するニュースが後を絶たず、WHO世界保健機関は、パンデミック、世界的な流行と宣言しました。フランスのAFP通信によると、感染した国の数は183か国、感染者数は64万770人、死者数は30万3人とのデータが出ており、そのうち回復した人は13万600人と報道されています。日本では感染者1893人、死者数は56人であり、これは今後も増えていく状況にあります。県内でも感染者が確認されており、本市においてもいつ、感染事例の報告があるかわからない状況です。

感染拡大防止の対策として、本市では、子どもたちの健康と安全を第一に考え、関係機関と連携し、市内全ての学校での臨時休業措置や、公設の放課後児童クラブの開所時間の繰上げ等を行いました。

また、各家庭において、子どもたちの健康管理や外出等についてご注意いただき、感染拡大防止に努めていただくよう、お願いしているところですが、引き続き緊張感を持った対応が必要であると考えています。

政府の大きな動きでは、新型インフルエンザ等対策特別措置法が国会で可決し、総理大臣が緊急事態宣言をすることができます。それによって知事は一定の国民の自由を拘束することができ、強制措置をもったものであるという法律を作りました。

このことから見ても、政府も極めて緊急事態であると認めていることがわかります。これがいつ発動されるかは事態を見ながらであります。

新型コロナウイルスを撲滅する医薬品、治療方法が開発すれば、国民、全世界の人々が安堵感を覚えるのですが、まだそれには至っていません。

しかし、医学界が総力を挙げて特効薬の開発、本格的な治療医薬品、治療方法が開発されていることに大いに期待していきたくて、それが決定的な解決策に結びついていきますが、それにはまだ時間がかかるのではと思います。

今回は、本市における感染拡大防止への対策を説明させていただいたあと、子どもたちの安全の確保や教育現場としての対応など、新学期に向けて家庭や地域、学校ができることについて、率直なご意見を賜りたいと思います。

まだまだ先が見通せない状況が続くと推察されます。今が正念場であると思っております。本日は、よろしく願いいたします。

3 意見交換

議事

① 「新型コロナウイルスから子どもたちを守るためにできること」

(1) 行政説明

新型コロナウイルスの対策の現状や課題、今後の対策等、資料に基づき説明。

(2) 意見交換

- ① 「新型コロナウイルスから子どもたちを守るためにできること」のテーマについて自由に意見交換を行った。

〈意見：教育委員〉

長浜市では滋賀県南部と違って感染者が出ていないため、一般の人々に対してはもう一つ危機意識が薄いのではないかという心配をしております。

43 ページで説明していただいた、「3. 児童生徒への指導と保護者や家庭への協力依頼」についてですが、例えば朝の検温や健康状態は、どのように学校に報告してもらうのでしょうか。様々な家庭がありますので、「熱測るのじゃまくさいわ」という家もあります。健康状態といっても、親の判断ではわからない部分も出てくるかと思えます。その部分の学校への連絡はどのようにされるのでしょうか。

〈回答：事務局（教育委員会事務局）〉

先週の金曜日（3月27日）、本日（3月30日）と、教諭の部会も開いており、検温や健康観察を家庭に依頼をするための具体的な部分も詰めております。実際は健康観察カードを学校から配布し、家で検温の有無、体温、体調を記入し、それを学校が管理をしながら、子どもたちの状況を把握し、少しでも熱があれば休むように積極的な呼びかけをしています。

〈意見：教育委員〉

今までであれば国や厚生労働省から全国に向けての指示や、首相から学校の一斉休校の要請など、トップダウンのような印象を受けておりましたが、地域によって発生状況が様々になってきたことで、行政や地域が様子を見ながら様々な判断をしていくことが大事になってきたのかと思います。その中で、滋賀県は6名の感染で、幸い長浜市は感染者がいなかったため、まだまだ危機意識が薄いのかもかもしれません。

ニュースでは若者が夜、外に出歩いている様子がよく報道されています。今は本当に大変な状況であり、一人一人の行動が国を救うということを考えないと、この状況乗り越えることはできないと、日々のニュースから感じています。

子どもたちにつきましては、親や地域が子どもたちを守るのはもちろんですが、子どもたちにもどのような状況で、何をすべきかを発達段階に応じて指導していただく中で、自分から考えて行動できるような状況にしていくことが大事ではないかと思えます。

親も含めて、子ども一人一人が自分を守る、これが国を守っていくことになることを日々感じております。

〈意見：教育委員〉

先日、熱が下がらない患者さんを診察しました。幸いこの方は陰性でした。その際に保健所に連絡をしたのですが、対応が明日になるとの連絡でした。熱があるのに明日まで待たせるといった遅い対応ではいけません。

また、「マスクがあるから大丈夫」という意見も聞きますが、それだけでは不十分です。もっとこの状況を、慎重真剣に考えなくてはなりません。

例えば、台湾は発症率が低いのですが、そこでは患者さんの行動経路をしっかりと調べます。外国から帰ってきた人については専用タクシーで帰宅させ、2週間自宅にいることを、国を挙げて徹底しています。そのようにしっかりと対策をとれば死者も少なくで

きるはずですが。日本も台湾も死亡率は低いですが、それでも亡くなっている方はいます。高齢者だけではなく、若者も亡くなっています。

また、情報の隠蔽はあってはなりません。常に最新の現況を発表しないとイケません。刻々と状況は変化しています。ニュースを見ても1時間後には感染者が増えています。薬も今すぐに使える予防注射もなく、収束がいつになるかもわかりません。この深刻さを一人一人が感じて欲しいです。

〈意見：教育委員〉

私は、保護者の方に休校になってからどうかの意見を聞きました。

様々な意見がある中で、学校の先生は電話で体調等の心配をしてくださったり、家庭訪問を何度もし、宿題も持ってきてくださったりしてありがたいとの意見が出ました。

また、家で勉強をさせるやり方が難しいとの声もあります。

宿題の中には、タブレットでできるものがありますが、タブレットを保有していない家庭もあり、1台のタブレットで兄弟それぞれの宿題をしていくという上手な使い方ができないといった声や、市のメールで各教科のプリントもありますが、印刷が大変な割に中身は少なくすぐに終わってしまうため、本屋で1年間のまとめの本を購入している家庭が多いです。

保護者の方は、今の学年の学習内容がしっかり子どもたちに教えてあげられているのか、次の学年に上がるにあたって大丈夫かということも心配されています。

保護者の方も、4月から学校が再開してほしいという思いはありますが、現状をみるとおそらくまた休校になるのではという意見も多いです。その時に、学校から、自宅で自主的に勉強する以外にオンライン授業等の発信があるとありがたいです。

また、休校当初に、子どもが外に出ていて通報された事例があったので、外に子どもを出すことが怖く、家の中でどうやって体を動かさせてあげたらいいか困っておられる保護者の方も多いです。何か体を動かす運動プログラムを教えていただけるとありがたいです。また、可能かどうかは別にして、時間を区切って少人数で体育館を使えるようにしてもらえるとありがたいという意見もありました。

勉強面、運動面での不安もありますが、何より、長浜市で感染者が出て、子どもたちの健康を害するというのが一番心配ですし、そのために何をすべきかがわからず困っているという状態です。

また、学校等からメールで情報発信を多くいただいていますので、今、何が起きているのかについての不安はあまりなく、過ごせているかと思えます。

〈意見：教育委員〉

すぐに休校措置を取られたことは良いことであったと思います。今後4月8日から再開するとき、3つの条件を徹底的に避けていくとなると、教室に子どもが集まって授業を受けるのはどうかという意見があります。再開する際に、国や県の支持等で「このような対応をとる、こうしていく」というものがあれば教えてほしいです。家の中にず

っというのは子どもにもストレスになり、早く学校が始まってほしいという思いもある中で、もし今後、感染者が出たら市としてどうしていくのかも考えていかなければならないと思います。また、少し外に出る場合に、「これくらいなら大丈夫、この範囲なら認められる遊び方である」というものが発信できるといいと思います。

また、新型コロナウイルス感染症によって仕事が無い、仕事に行きたくても子どもが家に行けないといった状況をどうしていくか。1つのアイデアとして、企業内幼稚園のようなものが市内にあってもいいのではないのでしょうか。ただ、誰が子どもを見るかとなるので、緊急策として先生がその場に仕事に行く。本来は学校内で業務をするのが仕事ですし、学校の役割は、本来は学校の中で子どもに学力をつけ、人間性を育てるわけですが、この緊急事態ですので、そんな対応をすることで信頼を得る、社会に貢献できるのではないのでしょうか。

最後に、学校によって判断が異なることの無いよう、統制をとって進めていくといいと思います。

〈意見：教育委員〉

長浜市なり教育委員会がどのようなメッセージを発するかどうかが非常に大事であります。1ページの「1. 基本的な考え方」のアンダーラインのところは一つのメッセージであると思います。ただ気になるのが、この3つの「密」が同時に重ならなければいいのかという点です。学校は40人ほどが教室にいますが、3つの「密」が重ならなければいいのであれば、窓さえ開ければいいのではないかという捉え方をされる場合も考えられます。そのため、医学的なことは素人でわかりませんが、あまり3つの「密」が同時に重なるということを強調しないほうが正しいメッセージが送れるのではないかと思います。

〈教育長〉

4月以降の教育委員会としての基本的な考え方をいくつかお話させていただきます。

1点目は、「事態が収束に向かっていくから学校の再開をするというのではない」ということです。依然として、世界的に深刻な状態にあり、その中で自分たち、または学校、教育委員会、市民、国民、全世界の人たちが感染拡大を防ぐため、自分たちにできることをする中で再開をしていくということなのです。

2点目は感染拡大を防ぐために、今君たちができることは何か、ということを経験段階に応じて、子どもたちに繰り返し指導をしていくことです。一方的に自分たちが制約を受けているといった姿勢では、この困難な状況に立ち向かうことはできないと思います。

長浜赤十字病院の院長先生とお話しさせていただいたときに、大変印象に残りましたのは、「子どもたちを通じて、家族の皆さんを啓発することが教育委員会のできる仕事じゃないですか」と仰っておられました。今、こんな時期だからこそ皆が協力して、こ

の目に見えない未知の敵に対して立ち向かっていかなくてはならないということ、子どもたちにも十分に伝えながら、何とか通常に近い形での学校・園の再開をしていきたいと思えます。

これは長浜市だけの問題でもありませんし、今後、発展途上国を中心に医療体制も不十分なところで爆発的な感染が予想されるということもニュースでも聞いております。地球に暮らす者としての観点から、ぜひ子どもたちに指導をしていきたいということでございます。具体的なことにつきましては、教育委員の皆様から出たご意見を踏まえながら、各学校・園に十分な教育学習等を行っていきたいと思っております。

13時38分 閉会